

史料館この1年を振り返って

史料館のこの一年もいろいろなことがあった。

新たな情報発信では、国土交通省の神戸運輸管理部が二〇二一年七月二十二日の海の日、兵庫海博倶楽部を発足させ、史料館も加盟館になった。兵庫県内の海に関する展示や資料を所蔵する資料館や博物館を集めて情報発信をしようというもので、二六

館が参加している。

インターネットで「兵庫海博倶楽部」と検索すると、各加盟館の最新情報やホームページにリンクする。

兵庫県立東灘高校や地元の深江南ふれあいのまちづくり協議会とタイアップした「東灘高生が選んだ よみがえる『深江音頭』の風景」展は本誌に紹介した通りで、好評で、令和四年八月二十七日まで延長した。この写真目当ての来館者も増え、図書サービス利用者も本の貸出、返却の前後に見入る姿も見られた。

観光振興

観光振興

公共交通・バリアフリー

環境・物流対策

旅客船事業(船の施)

マリナレジャー

船員の求人・求職

安全確保・事故防止

PDFファイルをご覧いただくにはAdobe Reader(無償)が必要です。ダウンロードの後インストールしてください。

 Adobe Acrobat Reader

Adobe Readerダウンロードページへのリンク

08

印刷用ページ

神戸深江生活文化史料館

新着トピック

施設概要

館内では、飲食器、調理具、玩具、衣類、農具、漁具、年中行事関連用具、医療器具、戦争資料、文書、考古遺物などの貴重な遺産を数千点の資料を収蔵、展示している。これらの資料は、昔の生活を思い起こせるだけでなく、東神戸の地域社会の歴史や生活文化の歩みを今に伝えている。

・営業時間 10時00分～17時00分 【入館は16時30分まで】
(月～金曜日休館、土・日曜日のみ開館)

・料金 無料

古絵図五点を購入、神戸大学と連携して、絵図のデジタル化にも取り組んだ。この内容も本誌で紹介している。

長らく研究員として活動してきた藤川祐作さんが病氣となり、個人が収集した考古遺物や写真、拓本、図書などの貴重な資料の管理ができなくなった。このため主要なものを史料館、奈良文化財研究所、辰馬考古資料館で一時的保管。考古遺物のうち採取地がはっきりしている遺物のうち西宮市のもものは市教委に、また神戸市の遺物は市埋蔵文化財センターに寄贈した。

神戸市の写真広報誌『グラフこうべ』の写真撮影を長く続けた井川宏之氏のネガが、保存条件のよくない倉庫に山積みされていることを知り、史料館で一時的保管している。なんとか整理できないかと考えている。（大國正美）